

インターナショナルスポーツ カイト コンペティション ルール(日本語版)2

version 2.21 (2005年10月1日)

目次 Contents

インターナショナルスポーツカイトコンペティション ルール(日本語版)	
I 序文 INTORODUCTION	4
II . 定義 DEFINITIONS	5
A 認可機関 SANCTIONING AUTHOIRITY	5
B インターナショナルルールブック委員会(IRBC).....	5
C スーパーバイ炉ノーコミッティ SUPERVISORY COMMITTEE .	5
D . スキルレベル SKILL LEVELS	6
E . 競技種目 DISCIPLINE	6
F . クラス CLASS	6
G 競技会 COMPETITOR .	
H チーム TEAM	6
I ペア PAIR	7
J インデビデュアル(個人) INDIVIDUAL	7
K . 競技者 COMPETITOR	7
L . デュアルラインカイト DUAL LINE KITE	7
M . マルチラインカイト MULTI-LINE KITE	7
N . トレイン TRAIN	7
O . テール TAILS	7

ルール	RULES	8
A	ペナルティ REOUINED PENALTIES	8
B	安全 SAFETY.....	8
1	境界線 Boundaries ,	0
2.	境界線を越えてのフライト Flying over Bound , aries.....	8
3	競技者の境界線越え Moving over Boundaries ,	0
C	スポーツマンシップ SPORTSMANSHIP	
D.	オフィシャルスタッフ OFFIC] IAL STAFF.....	9
1 .	チーフジャッジ ChiefJudge	9
2.	ジャッジパネル Judging Panels	9
3	フィールドディレクターField Director.....	9
4.	ピットボス Pit Boss.....	10
5.	ラインジャッジ Line Judges	10
6.	得点係 S , corers.....	10
E .	競技中のアドバイス ADVICEWI HILE COMPETING.....	10
F .	抗議 PROTEST.....	10
1.	不当な扱い Unfair Treatment.....	10
2.	職権乱用 Abuse ofofficial Position.....	11
G	ペアとチームのメンバーMEMBERSHIPOFPAIRSANDTEAMS	1
1 .	登録 Registration.....	11
2.	構成 Composition	11
IV.	ガイドライン GUIDELINES	13
A	説明会 BRIEFINGS.....	13
1.	競技説明会 (パイロットミーティング) Competition Briefing.	13
2.	競技種目説明会 (プレフライトミーティング) Discipline Briefi ing.....	13
B .	講評会 DEBRIEFINGS.	13
1	競技講評会 (ディブリーフィング) Competition Del briefing.....	13
2	競技種目講評会 Discipline Debriefing ,	14
C .	フライトオ - ダー FLIGI HT ORDER DRAW.....	14
D .	競技フィールド COMPI ETITION FIELD.....	14
E .	ステージイン / アウト STAGING IN AND OUT.....	14
F .	イン / アウトのコール CALLING IN AND OUT.....	15

1	プレジジョン Precision	15
2.	バレー Ballet	15
G.	セットアップタイム SETUP TIMES	15
H.	バレー BALLET	1
1	最小/最大制限時間 Minimum and Maximum Times	16
2	音楽 Music	16
3	振付 Choreography	16
4	実行力 Execution	17
I	プレジジョン PRECISION	17
1.	コンパルソリー Compulsory Figures	17
2.	テクニカルルーティーン Technical Routine	17
J	風速規定 WIND GUIDELINES	18
1	風速範囲 Wind Speed Ranges	18
2	ウインドチェック Wind Checks	19
3.	風待ち中断 Wind Recess	19
4	極端な天候 Extreme Weather	20
K	45秒ルール 45-SECONDGUIDELINE	20
L.	ヒト HEATS	20
M	用具 EQUIPMENT	2
N	ヘッドセジト HEADSETS	2
O	失格 DISQUALIFICATION	2
.		1
P	ラウンチクルー LAUNCH CREWS	2
.		

I 序文 INTRODUCTION

インターナショナルルールブック委員会（IRBC）は、フライヤー達が世界中の競技会で使用できる、解りやすいルールブックを作るために1996年に組織されました。

この本では定義、ルール、ガイドラインのみについて述べている。その目的は、フライヤーや観客にとってカイトというスポーツがより魅力的なものにすることです。ですから、ここではジャッジの方法やコンパルソリーの詳細なことまではふれていません。それらは別冊の「ジャッジ ブック（Judges Book）」と「コンパルソリーブック（Compulsory Book）」で詳述し、この作業の第一段階をひとまず完結します。

IRBCは、スポーツカイトルールの改良に長年にわたって寄与してくれた、いまや名を挙げるにはあまりに多くなってしまった全ての皆様に感謝申し上げます。その中でもこのルールブックをまとめるにあたって助力をいただいた皆様には特に感謝を申し上げます。また、辛抱強くこのルールブックの完成を待っていてくださった、今この本を開いてくださっている皆さん、フライヤー、ジャッジ、オーガナイザー、そしてスポーツカイトに関わる全ての方々に感謝申し上げます。このルールブックがスポーツカイトの新たな時代を切り開くものになると感じて戴けることを期待します。

注記:

本ルールブックは認可機関によって認められたルールであり、他に明記がない限り競技シーズンの開始から採用される。

ルールブックの公式採用日は下記の通りとする。

2006年4月1日 AJSKA

2005年8月1日 AKA

2005年10月1日 STACK

インターナショナルルールブック委員会（IRBC）委員		2005年10月現在
AJSKA	AKA	STACK
立間文章	Mike Gillard	John Mitchell
島田 浩一	Darin Skinner/John Barresi	Peter Fielder

II. 定義 DEFINITIONS

A . 認可機関 Sanctioning Authority

このルールブックの認可権限は次の3つの団体にある：

全日本スポーツカイト協会(AJSKA)

アメリカンカイトフライヤーズ協会(AKA)

スポーツ・チーム・アンド・コンペティティブ・カイトイング(STACK)

これ以外に、この3つの認可機関による全員一致の合意があれば認可機関として加えることができる。各々の認可機関はこのルールブックの補足説明書や変更附則や追加附則などを発行することができ、国際ルールブック委員会(IRBC)が作成した資料はどれでも発行することができる。認可機関の義務は、このルールブックおよび追加附則を全ての競技者とスタッフがいつでも手に入れられるように努めることである。競技者は自己の責任においてこれらのルール規程の全てを理解しなければならない。

最新版はIRBCの公式サイト <http://www.worldsportkite.com/irbc.htm>

またはAJSKのホームページで手に入れることができます。

B . インターナショナルルールブック委員会(IRBC)

インターナショナルルールブック委員会(IRBC)は各々の認可機関から二人のメンバー、合計6名から成る。一つ以上の認可機関が公認した国際競技会においてIRBCはルールを説明し、報告する認可機関として機能する。

C . スーパーバイザリーコミッティ Supervisory Committee

スーパーバイザリーコミッティはオーガナイザー、ジャッジの代表者(チーフジャッジ以外の)そして競技者の代表から成る。競技者の代表は競技説

明会において競技者達によって選出される。コミッティのメンバーは必要に応じて他の競技者・スタッフに助言を求めることができる。

D . スキルレベル Skill Levels

スキルレベルはそれぞれの認可機関が規定するが、最低限、ノービスとマスターとする。

E . 競技種目 Discipline

競技種目は、マスターデュアルラインチームバレー、エクスペリエンスマルチラインインデビデュアルプレジジョンと表記する。

F クラス Class

クラスは、1種目もしくは2種目、またはそれ以上の同一レベルの競技種目から成る。つまり、競技者はそれらの全ての競技種目を行わねばならない。例えば、マスターインデビデュアルデュアルライン バレー、とマスターインデビデュアルデュアルライン プレジジョンを組み合わせ、マスターインデビデュアルデュアルラインクラスとなる。

G . 競技会 Competition

競技会は、いくつかの競技種目 (Discipline) で構成し、同 会場で、1日あるいは数日間で行う。

H . チーム Team

チームは三人以上。

I . ペア Pair

ペアは二人。

J . インデビデュアル (個人) Individual

インデビデュアルは一人。

K . 競技者 Competitor

競技者とは競技種目における、チーム、ペア、あるいはインデビデュアルを指す。

L . デュアルライン カイト Dual-Line Kite

デュアルラインカイトは二本ラインで操作するもの。

M . マルチライン カイト Multi-Line Kite

マルチラインカイトは3本以上のラインで操作する。

N . トレイン Train

トレインは三橋以上のカイトを連ねて - まとめに飛ばすこと。

O . テール Tails

テールは付属物でカイトの一部とはみなさない。

注記: カイトの一部ではないからテールが地面等に接触してもペナルティにならない ,

．ルール RULES

これらは、いかなる状況においてもオフィシャルスタッフが変更することはできない。

A．ペナルティ Required Penalties

ルールやガイドラインに違反をした競技者には、ペナルティが課せられる。ルールやガイドラインに具体的にペナルティが明記されていない場合は、その行為の重要性に応じて、チーフジャッジの裁定により、その種目、そのクラス、あるいは競技会そのものに対して失格処分にすることができる。

B．安全 Safety

いかなる時でも安全を最優先とする。危険な飛行をした競技者は、ヘッドジャッジの判断でその種目を失格とする。あるいは、チーフジャッジの判断により競技会を失格とする。

1．境界線 Boundaries

外側境界線は必ず設置する。また、出来る限り内側境界線を設置することが望ましい。内側境界線（イエローフラッグ対象）は、ラインジャッジとフィールドディレクターが、競技者あるいはカイトが外側境界線（レッドフラッグ対象）に近づいたことを注意するためのものである。

外側境界線とは、ロープ、コード、テープなどを張るために立てたポール、支柱を結んだ想像上のラインのことであり、ロープ、コード、テープそのものの位置ではない。

2.境界線を越えてのフライト Flying over Boundaries

演技中、演技に入る前、演技終了後のいずれにおいても外側境界線を

越えてのフライトはその種目を失格となる。すなわち、このルールは、ヘッドジャッジが規定する「その種目の開始から終了までの間」に発生した全てに対し適用される。

3. 競技者の境界線越え Moving over Boundaries

演技中に競技者の体が外側境界線を越えた場合は失格となる。

C . スポーツマンシップ Sportsmanship

いかなるときも競技者はスポーツマンシップにのっとり行動すること。

D . オフィシャルスタッフ Official Staff

オフィシャルスタッフはジャッジ以外の任務を他の人に委任することができる。

1 . チーフジャッジ Chief Judge

競技会には必ず一人のチーフジャッジをおく。チーフジャッジは各競技種目の、ヘッドジャッジと他のジャッジを指名する。チーフジャッジはその競技会の競技者にはなれない。チーフジャッジのヘッドジャッジ兼任を推奨しない。

2. ジャッジパネル Judging Panels

全ての競技種目のジャッジパネルは最低 3 名とするが、出来る限り 5 名が望ましい。

3 , フィールドディレクター Field Director

全ての競技種目に 1 名のフィールドディレクターをおく。

4.ピットボス Pit Boss

競技音数や競技者の大会慣れの程度など必要に応じてピットボスを配置する。

5.ラインジャッジ Line Judges

競技種目によっては最低2名のラインジャッジを配置する。

6.得点係 Scorers

得点係は、ジャッジパネルの採点を集計し、チーフジャッジの監修のもとで結果を発表する。認可機関がある特定の採点プログラムまたは方式を公式に認可した場合、そのプログラムまたは方式を認可機関の管轄下のすべての大会で用いて得点の集計を行わなければならない。

E . 競技中のアドバイス Advice While Competing

競技フィールド上において競技者はフィールドディレクター以外からのアドバイスを受けることはできない。

F 抗議 Protest

1 不当な扱い Unfair Treatment

不平等な扱いを受けたと感じた競技者は誰でも適切な時間内で、その種目のヘッドジャッジに抗議することができる。競技者がそのヘッドジャッジの対応に納得できない場合は、チーフジャッジに訴えることができる。チーフジャッジが解決できない場合は文書にて、スーパーバイザリーコミッティに抗議することができる。それでも競技者の満足する結果にならない場合、その抗議書とそれに対するスーパーバイザリーコミッティの返答書を、その競技会の認可機関 (Sanctioning Authority) に抗議することができる。

ひとつ以上の認可機関が公認した国際競技会では、インターナショナルルールブック委員会 (IRBC) が抗議できる最終期間である。

2 . 職権乱用 Abuse of official Position

オフィシャルがその立場を乱用、またはスポーツマンらしからぬ振舞をしていると、競技者や他のオフィシャルが感じた場合、スーパーバイザリーコミッティのメンバーに苦情を申し立てるか、文書にてその競技会の認可機関に抗議することができる。スーパーバイザリーコミッティはその抗議が妥当と判断したときは、そのオフィシャルに注意を与える。この場合、スーパーバイザリーコミッティは後日、文書にて認可機関に報告する。認可機関は、報告書をもとにそのオフィシャルに対し適切な処置をする。その処置には、しかるべく期間オフィシャルをつとめる権利を剥奪することも含む。

一つ以上の認可機関が公認した国際競技会では、認可機関に代わってインターナショナルルールブック委員会（IRBO が上記の処置を行う。

G . ペアとチームのメンバー Membership of Pairs and Teams

1 . 登録 Registration

ペアとチームのメンバーはそれぞれの認可機関（日本ではA J S K A ）に登録する。登録方法はその認可機関が定める。

2. 構成 Composition

チーム構成は競技会の中（例えばバレーとプレジジョンにおいても、競技会毎に変わっても良い。
競技者は複数のチームから同じ競技会に出場する事はできない。

ペアの構成は 一つの競技会中で異なってはならない。但し競技会毎に変わってもよい。

注) 以下の表はルールから削除されました。

登録メンバー人数	変更可能な人数	最小出場人数
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8以上		

チームの場合、変更可能な人数や最小出場人数の制限がなくなっています。
たとえば6人で登録したチームの場合、プレジジョンでも5人以上で
フライトする必要がありましたが、3人でも可能になりました。
ただ、コンパルソリーとテクニカルルーティーンは同じメンバーとなります。

IV. ガイドライン GUIDELINES

これらの事項は、競技会開始日より 30 日以前に競技者に伝える場合を除いてオフィシャルが変更してはならない。

A . 説明会 Briefings

1 競技説明会 (パイロットミーティング) Competition Briefing

競技会開始前には、チーフジャッジの指揮のもと、全ての競技者、ジャッジ、オフィシャルが集合して説明会を行う。チーフジャッジは最低限、その競技会に於ける特別ルールあるいはガイドラインの説明、競技進行順の告知、競技会に問する質疑応答を行う。また、スーパーバイザリーコミッティの競技者代表を選出するための十分な時間を割り当てる。チーフジャッジの判断で、数日間にわたる競技会のときは、毎日概要説明会を行うことができる。

2. 競技種目説明会 (プレフライトミーティング) Discipline Briefing

ヘッドジャッジは、各種目の開始前にその種目に関する説明会を行う。最低限、その種目を担当するジャッジ、フィールドディレクター、ピットボス、ラインジャッジの紹介、ステージイン、ステージアウトの手順の説明、プレジジョンの指定コンパルソリーフィギュアの発表、フィールドディレクターにバレーの音源収集を確認、その種目に関する質疑応答を行う。

B . 講評会 Debriefings

1 . 競技講評会 (ディブリーフィング) Competition Debriefing

競技会終了時には、チーフジャッジの指揮のもと、全ての競技者、ジャッジ、オフィシャルが集合して講評会を行う。講評会の目的は、様々な立場の参加者が話し合い、次の競技会をより良<するための提案をする

ことにある。

2. 競技種目講評会 Discipline Debriefing

ジャッジまたは競技者が望む場合は、ヘッドジャッジによる競技種目講評会を開く。

C. フライトオーダー Flight order Draw

各種目のフライトオーダーの抽選は、あらかじめ無作為に行って作成したものを明示するか、種目説明会の時に行う。意見が対立して時間的に不都合が出た場合はチーフジャッジが調整する。

D. 競技フィールド Competition Field

外側境界線は、最低限下記のサイズとするが、より広いことが望ましい。

	メートル	フィート
チーム/ペア	110 × 110	360 × 360
個人デュアルライン	90 × 90	295 × 295
個人マルチライン	75 × 75	246 × 246

外側境界線から3メートル(10フィート)以上内側に、内側境界線を設けることが望ましい。サイズはメートル表示が基本である。

フィールド上記よりも10%以上小さい場合は、事前に認可機関から承認を受けなければならない

E. ステージイン/アウト Stage in and out

競技フィールドに隣接してステージインエリアとステージアウトエリアを別々に設ける。ステージインエリアで待機し、フィールドインの合図を待つことは、競技者の義務である。

追記：ステージインエリア、ステージアウトエリアでのフライトは禁止でカイトは揚げずに持って入退場が原則だが、説明会での指示による。

F イン/アウトのコール Calling in and out

1. プレジジョン Precision

それぞれのコンパルソリー開始時に「イン」、終了時に「アウト」をコールする。コンパルソリーで、インのコール後 45 秒経ってもアウトのコールがない場合はその図形は0点となり、次のプレジジョンのセットアップタイム(次のコンパルソリーまたはテクニカルルーティーン)が直ちに開始される。

(注意)これはコンパルソリー中に競技者がクラッシュした場合を想定しています。クラッシュのリカバーに長時間費やすのを防ぐためです。

また、テクニカルルーティーンの開始、終了時も「イン」、「アウト」をコールする。

2. バレー Ballet

競技者が演技開始時、終了時に各々「イン」「アウト」(ぶ=) - ルを行ってもよいが、コールが無くても、ジャッジは音楽開始を「イン」音楽終了を「アウト」とみなす。

G. セットアップタイム SetupTime

競技者は、フィールドディレクターの「入場の合図」があるまで、フィールドに入ってはいけない。「入場の合図」が下記のセットアップ制限時間の計測開始時である。

	個人	ペア	チーム
競技開始のセットアップ	3分	4分	5分
コンパルソリーの間	45秒	45秒	45秒
コンパルソリーとテクニカルルーティーンの間	90秒	90秒	90秒

競技者はフィールドディレクターの合図があるまでは演技を始めてはいけない。規定のセットアップタイムが過ぎてもフィールドディレクターの演技開始の合図がない場合には待機し、フィールドディレクターの合図を受けてから 45 秒以内に演技を開始すること。どのような状況で待機状態になったとしても、フィールドディレクターの合図を受けてから 45 秒というセットアップタイムは確保される。

演技開始の合図を受けてから規定の時間内に競技者が演技を開始できなかった場合には、フィールドディレクターが強制的に「イン」コールを宣言し、それによってジャッジは採点を始める。

H . バレ－Ballet

バレ－は、音楽を解釈して表現すること、と特性付けられる。従って、ほとんどあるいは全<音楽無し<の演技はバレ－と認められない。

1 最小 / 最大制限時間 Minimum and Maximum Times

	個人	ペア	チーム
最低	2分	2分	2分
最大	4分	5分	5分

2. 音楽 Music

テープやCDまたは大会が認める他のメディアは競技種目説明会時に提出すること。曲は頭出ししておき、はっきりと名前を書いておくこと。競技者は三曲まで提出できるが、フィールドインの後、セットアップタイムが終わる30秒前までにフィールドディレクターにどの曲を使うかを伝える。オーガナイザーとチーフジャッジが許可すれば、生演奏でもよい。

曲の始まりの前に合図(信号音)があるのは好ましい。音楽は、演技の為に作曲したもの、編曲したもの、あるいは既存のものなどである。但し、音楽は完結した一つの曲でなければならず、ぶつぶつ途切れた部分の寄せ集めではなくきちんと繋がられたものとする。もし、幾つかの曲を使う場合は一つの曲として印象付けられるように繋ぎ合わされねばならない。音楽は違和感なく終了すべきで、制限時間に合わせるためにブツリ切ような出し抜けな終わり方をすべきではない。

3. 振付 Choreography

振付とは、選んだ音楽に対する解釈一表現のことであり、曲の始まりか

ら終わりまでの一連の演技である。すなわち、音楽と演技は密接に関係付けられていることである。演技（ROUTINE）は、ダイミツさ、テンポ、リズム、オリジナリティ（劇的さ・スリル感が重要ということではない）ムード、創造性、バラエティさ、などの音楽構成要素が多彩に変化していき様相を表現することである。

4. 実行力 Execution

実行力とは競技者の飛行技術を評価するもので、演技の複雑性、大胆さ、技術的難易度と共に、フライト技術の正確さ、カイトの制御能力、タイミングの取り方（音楽との整合性、チームではさらに他のメンバーの動作との一致）、カイト間の距離の保ち方（チームノペア）、ウインドウインドウの活用、について採点する。

I プレシジョン Precision

プレシジョンは技術レベルを試すもので、コンパルソリー次いでテクニカルルーティーンの間に行う。

1. コンパルソリー Compulsory Figures

様々な技術の熟練度を測る為に、最高6つまでのコンパルソリーを競技会の30日以上前に発表し、そのうち3つのコンパルソリーをチーフジャッジが競技会当日に選んで行う。図に示された進入方向と逆から（左右反転の図形）始めても良い。ただし、フィールドディレクターが演技開始の合図を出す前に、競技者はフィールドディレクターにその旨を伝えなければならない。その報告を怠った場合、その図形に関しては採点がゼロになる。

コンパルソリーはインのコールから45秒以内に終わること。

注)コンパルソリー途中でのクラッシュはこれまで強制的に0点で演技を中止していましたが、新しいルールではリラウンチして演技を続ける事ができます。

2. テクニカルルーティーン Technical Routine

テクニカルルーティーンは、競技者の構成力と技術力を表現するため

に組み立てられた一連の演技 (routine) である。審査及び採点要素 (component) は、実行力と構成力から成る。

a) 実行力 Execution

実行力は、正確さ、コントロール、タイミング、スペーシング、ウィンドウの活用、複雑さ、そして技術的に厳しく大胆なマヌーバを取り入れているか、(以上のことに限るわけではないが) について評価する。

) 構成力 Content

構成力は、テンポ、リズム、オリジナリティ (劇的さ・スリル感が重要ということではない)、創造性、バラエティさ、(以上のことに限るわけではないが) について評価する。

c) 最小 / 最大制限時間 Minimum and Maximum Times

	個人	ペア	チーム
最低	1分	2分	2分
最大	3分	5分	5分

J 風速規定 Wind Guidelines

1 . 風速範囲 Wind Speed Ranges

下記の風速範囲で競技を行う。

	最低		最高	
	Kph	Mph	Kph	Mph
ノービス	7.0 2.0m/s	4.4	30.0 8.3 m/s	18.6
マスター	4.0 1.1 m/s	2.5	45.0 12.5 m/s	28.0

(1 kph は 0 . 2 7 7 7 7 m

風速は kph 表示が基本で、mph はその略換算値である。他のレベルに対する規定値はそれぞれの団体（日本では AJSKA）が決める。

2. ウィンドチェック Wind Checks

a) 「イン」コールの前 Before Calling IN

インコールの前ではいつでもウィンドチェックを要求することができる。ウィンドチェックが行われている間も、競技者はその他のルールやガイドライン（セットアップタイムや 45 秒ルールなども）が適用されている。フィールドディレクターは 10 秒間計測する。風速が規定外の場合は、競技者は「イン」コールの必要は無く、フィールドディレクターは風待ち中断（wind recess）を宣言する。

) 演技開始 2 分以内 Up to 2Minutes into Technical or Ballet Routine

テクニカルルーティーンとバレーの演技開始 2 分以内（個人規定では 1 分）までは、ウィンドチェックを要求することができるが、測定中も演技を続けること。フィールドディレクターは 10 秒間計測する。風速が規定外の場合、競技者は演技を中止することが出来る。フィールドディレクターは風待ち中断（wind recess）宣言する。

3. 風待ち中断 Wind Recess

風待ち中断が宣言された時、ヘッドジャッジは、競技再開の時間及び方法について直ちに決定する。適切な時間内で競技を開始できない場合、チーフジャッジはその種目の延期または中止を決断する。延期とした種目を当日の数時間以内に再開できない場合、それまでの演技はキャンセルされ、再度、競技者全員がその種目を最初から行う。

競技者はフィールド上で待機するか、発表を待つかを指示される。演技再開の時は、ルールに定められたその種目のセットアップタイムに基づく準備時間が与えられる。

4. 極端な天候 Extreme Weather

極度な弱風・強風、豪雨、稲光りなど天候が変わって、危険な状態あるいは不公平な競技会になりうるとチーフジャッジが判断した場合、適切な処置をとる。

その処置とは、風待ち中断、風速範囲の変更、種目あるいは大会の中止、フィールドの拡大、コンパルソリー数の削減、テクニカルルーティーン省略、などである。

その場合、チーフジャッジは競技者、オフィシャル、オーガナイザーを召集して特別説明会を開き、ルールやガイドラインの変更内容を全員が明確に理解し納得することを徹底する。

K . 4 5 秒ルール 45-Second Guideline

注) このルールは削除されました。

今までは、演技途中のクラッシュで4 5秒以内にリラウンチできないと0点になったり強制的に演技が中止となったりしていましたが、新しいルールではクラッシュという定義自体が無くなっていますので、このルールは削除されています。

ただし、コンパルソリーはリラウンチによる演技の継続が可能となりましたが、IN から4 5秒以内にOUT コールをしないと0点になるというルールが追加されています。

L . ヒート Heats

16人以上の競技者がいる種目ではヒート(予選)を行うものとする。各ヒートの競技音数は15人以内で、できる限り同数とする。チーフジャッジとオーガナイザーは、決勝進出音数が15人以下になるように各ヒートの通過者

数を決める。それは最初の競技説明会において発表すること。

M . 用具 Equipment

競技者はその種目に適切で安全なものであるならば、どのようなデュアル / マルチラインカイトを使うことができる。プレシジョンにおけるコンパルソリー間あるいはテクニカルルーティーンとの間、あるいは風待ち中断に適用されるセットアップタイム規定の時間内でカイトを交換することができる。また、演技開始前までに境界線（フィールド）内に持ち込んだパーツを使ってカイトを修理できる。切れたラインは取り替えること。結びなおして使うことはできない。

N . ヘッドセット Headsets

チームあるいはペアは、互いの意思疎通のためヘッドセット（無線を使用してもよいが、大会運営や地域通信網に用いられているシステムに影響を与えないもので、かつ電波法に違反しないものとする。

. 失格 Disqualification

失格となった競技者は速やかにフィールドから退場すること。いかなる抗議も議論もその競技種目の終了後に行うこと。

P . ラウンチクルー Launch Crews

ラウンチクルーは、カイトの設置、クラッシュした際のカイトの立て直し、用具の修繕などのために、競技者がフィールド内に入れることができる補助員である。個人とペアは2人まで、チームはメンバー数と同数までのラウンチクルーを付けられる。

競技者がラウンチクルーを必要としながらもいない場合は、競技種目説明会時にその種目に出場する他の競技者の中からラウンチクルーが指名される。これは、ラウンチクルーを必要とする競技者の直前・直後が演技順ではない競技者がいる場合のみ可能である。要請があったときは、ラウンチクルーの指名方法の変更を最初の競技説明会において説明しておくこと。